

第2章 基本構想

1 町の現状

水俣病からの地域再生と魅力ある文化的空間の創造を目的に始まった「緑と彫刻のあるまちづくり」は、美術を中心とした領域横断的な文化芸術活動により全国的な認知度の高い評価を得ていますが、先の見えない時代だからこそ、これまでの取組や理念を発展的に継承し、住民参画型アートプロジェクト等の人的・文化的交流の促進と地域資源の再評価を行い、より良い未来を拓く機会を生み出すため、あらゆる人々に多面的思考や多様な視点を促すことが必要になっています。

また、町の基幹産業である農林水産業においては、温暖な気候やリアス式海岸などの地理的条件を生かし、農業分野では柑橘やサラダたまねぎを中心とした生産基盤強化等の取組み、漁業分野では漁港施設等の水産基盤整備を実施し、林業分野では林道・作業道の整備をはじめとする生産・流通基盤の整備等を推進してきたものの、地球温暖化や異常気象の影響を受け、安定した生産が困難になるだけでなく、産地間競争の高まりや消費地である都市部までの物流コストの問題もあり、徐々に活力を失いつつあります。また、担い手不足や耕作放棄地の拡大などの問題も顕著になってきています。

このように、基幹産業である農林水産業の低迷に加え、商工業においても、町内外における全国チェーン店の進出やインターネット販売の普及などにより、地場企業を取り巻く状況は年々厳しくなっています。さらに雇用の場を外部に求める企業誘致に関しても立地問題などから大きな進展は見られず、産業の振興、地場企業の育成は極めて困難な状況で、定住の基礎となる働く場の確保が大きな課題です。

町の活力のバロメーターである人口は、他地域と同様に年々大幅な減少傾向で、生まれた子どもの数より亡くなった人の数が多い「自然減」が続く状況を前提とせざるを得ず、転出者が転入者を上回る「社会減」に関しては、可能な限りプラスを目指し、全てのライフイベントに対応した施策をレベルアップして展開し、誰もが幸せに安心して生活できる環境を整備していく必要があります。

2 目指す将来像

町民アンケートでは、町のメインテーマにふさわしいものとして、「安心して暮らせるまちづくり」が全体の 37.1%と大きな割合を占めました。この背景には、町の地理的条件や人口減少による町の活力低下や、新型コロナウイルス感染症などウイルスとの共存を前提とした社会となったこと、地球温暖化を起点とした異常気象や大規模災害の発生など、先行きが見込めないことへの不安感があると考えます。

そのことを踏まえ、町の将来像は、それぞれの町民が考える「安心して暮らせるまち」を実現するための目指すべき姿とします。では、町民が安心して暮らせるということはどういう状態なのでしょう。もう少し深掘りすると、現在はもちろん、未来に対しても不安なく明るい気持ちで生活ができることに他なりません。町民の“現在”抱える不安を無くすことだけでなく、“未来”の希望までも創造していくこと。このことこそが、持続可能なまちづくりの根幹であり、これまでまちづくりのメインテーマとして掲げてきた「住みたくなるまちづくり」の土台となるものと考えます。そこで、第10期津奈木町振興計画では、現在の安心を基礎として未来に続く希望を生み出せるまちを目指す将来像とします。

また、これを実現するための具体的な進め方として、町民の安心の基礎となる福祉や生活環境、防災面の施策について、これまでの取組を継承しつつ社会情勢に応じた事業強化等を柔軟に行い、より大きな安心につなげていきます。そして、未来の希望を作ることは、新しい時代に合った持続可能な津奈木町を創造し、次世代につないでいくことです。そのためには、町の現状でも述べたように、基幹産業である農林水産業の振興をはじめ、地場企業の育成を軸とした産業振興と雇用確保を中心とし、町の最も特徴的な取組みである「緑と彫刻のあるまちづくり」を発展させ、更に魅力あるまちづくりを進めていくことで、急速に進展する人口減少に歯止めをかけ、町の活力を維持する取組みを積極的に推進していきます。

3 まちづくりのメインテーマ

第10期津奈木町振興計画では、「2 目指す将来像」を踏まえ、

『 人と自然、アートがつなぐ 希望をもって住めるまち 』

をまちづくりのメインテーマとして設定しました。目指すべき将来像の実現に向けて、このテーマのもと諸施策を進めていきます。

＜メインテーマの考え方＞

現在の安全・安心を基礎として、未来につながる希望を生み出していくためには、まちづくりの主役である町民（人）とあらゆる生産基盤や暮らしの土台である自然を大切にしていくことを大前提として、これまで約40年にわたって取り組んできたアートのまちづくりを発展的に進めていくことが重要です。また、第10期振興計画におけるアートの定義については、これまでの文化芸術を中心にした施策やまちづくりに加え、コロナ禍や自然環境の変化によって複雑多様化する地域課題に対して的確に対応していくことを念頭に、以下の2つの視点から捉えることとします。

1. 論理的思考とアート思考の融合

あらゆる施策の推進において、これまでの経験や科学的根拠を重視してきた論理的思考に加え、人間が持つ直感や感性に基づくアート思考によっておおらかなビジョンを生み出し、より柔軟な行動が起こせるようなまちづくりを進めることを意味します。

2. アートの力による地域課題の解決

アートには、人と人をつなぐ、新たな発想を生み出すなどの力があります。これらの力を活用することで、ウイルスとの共存や自然環境の変化など、地域が抱える新たな課題の解決に取り組むことを意味します。

＜メインテーマを実現するための基本指針＞

本計画においては、町民の将来にわたる安心と希望を作りだすことが最大のミッションです。それを実現するために必要な要素は様々ありますが、最も必要なことは希望につながる行動を起こすことです。これまでの町の歴史や風土を大切にすることを前提として、未来志向で物事を捉え、次世代まで続く安心と希望を作りだすために必要なことに果敢に取り組んでいくこととします。

＜メインテーマを実現するための横断的な目標＞

目標1 人を育て、多様な人材の活躍を推進する

安心と希望を持って住み続けられるまちを実現するためには、多様な人材の活躍が不可欠です。そのため、あらゆる年代、分野における人材育成を図っていくこととします。

具体的には、あらゆる施策の推進に際して、人材育成視点で事業を再整理し、特に将来を担う若年層の挑戦を後押しできる環境を整備します。

目標2 新しい時代の流れをつかみ、町の付加価値につなげる

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や地球温暖化の進展などによって、これまで経験したことのない事件や災害などの危険が高まっています。このような時代において、真に希望を持てるまちづくりを実現していくためには、これら新たな社会課題への対応を成長の機会と捉え、町の施策全般におけるDX化や環境負荷の低減等を実現し、町の新たな価値創出につなげていきます。

4 施策の大綱

「目指す将来像」の実現を目指すため、現在の町の重点4施策（①少子高齢化・人口減少対策、②農林水産業の振興、③地場企業育成・雇用確保、④観光の振興）を再編しました。その結果、最上位の政策課題を「少子高齢化・人口減少対策」と位置づけ、これらを解決するために必要な以下の6項目を各分野横断的かつ優先的に取り組む重点プロジェクトとして実施することとします。

また、重点プロジェクトを実現するため、分野ごとのプロジェクトを明記し、施策を展開していきます。

町の最重点課題 = 少子高齢化、人口減少

メインテーマ 「人と自然、アートが つながるまち」 希望をもって住めるまち	重点プロジェクト	施策
	1 暮らしの安全・安心の確保 1) 暮らしの安全を支える基盤整備 2) 暮らしの安心につながるコミュニティづくり	1 土地利用計画 2 水利用計画 3 防災計画 4 コミュニティ計画 5 住宅計画 6 交通体系計画 7 環境保全計画 8 生活関連施設計画 9 交通安全計画 10 保健医療計画 11 社会福祉計画
	2 教育・子育て環境の充実 1) 子ども・子育て支援の充実 2) 未来へつながる教育づくり	1 学校教育計画 2 社会教育計画 3 文化振興計画
	3 農林水産業の振興 1) 新たな担い手の確保と産地維持 2) 稼げる農林水産業の創出	1 農業振興計画 2 林業振興計画 3 水産業振興計画
	4 地元企業育成・雇用確保 1) 地元企業育成・支援と新産業創出 2) 企業誘致と連動した雇用確保	1 商工業振興計画
	5 観光の振興 1) 町全体をつなぐ観光地域づくり 2) つながる関係人口創出と交流促進	1 観光振興計画
	6 地域振興と行政基盤づくり 1) 町民が主役の持続可能な地域づくり 2) デジタル技術等を活用した行政基盤づくり	1 地域づくり計画 2 広報計画 3 行財政計画